

〔科目名〕 公共政策論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 選択
〔担当者〕 木立 力	〔オフィス・アワー〕 時間:開講時に案内 場所:研究室	〔授業の方法〕
〔科目の概要〕 2 年次の「マクロ経済学」では主にIS・LMモデルを学んだと思います。そこでは国債発行を財源として政府支出を増やしたり、減税したり、貨幣供給を増やすことでGDPが拡大します。どのような場合にも、政府支出は多いほど、税金は安いほど、貨幣供給は多いほどGDPは高まるのでしょうか。 このモデルは不況下の一時点の分析には適していますが、このモデルに基づく政策は経済成長にはむしろ悪影響を及ぼすのです。 この講義では、第1に、「マクロ経済学」の講義で学んだIS・LMモデルや静学的な古典派モデルと経済成長モデルを対比し、どの経済状況のときにどのモデルが適しているか、どの政策が適しているかを検討します。 少子高齢化は長期の動きなので、実は経済成長モデルの分析が有効です。この講義では、第2に少子高齢化に関する政策を経済成長モデルを用いて考察します。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 2 年次で学んだマクロ経済学でとりあげられた静学モデルと経済変動論でとりあげられた動学モデルとの比較を行う。 この講義では、少子高齢化のもとでの経済政策を、経済成長モデルの観点から考察し、短期モデルによる経済政策との違いを明らかにする。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 最終目標は、日本の少子高齢化社会でのマクロ経済政策のあり方について、現実の経済政策との違いを批判的に考察すること。 中間目標は、第1に、経済成長モデルをよく理解すること。第2に少子高齢化問題への経済成長モデルの適用について考察すること。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 昨年のこの講義のアンケートでは、日本の経済政策との関連について説明したことが好評価を得ていた。本年も経済成長のモデル分析と現実の日本の経済政策との関連を解説したい。出席点も成績評価に大きく影響する。		

〔教科書〕 なし	
〔指定図書〕 なし	
〔参考書〕 マンキュー『マクロ経済学Ⅰ』『マクロ経済学Ⅱ』必要箇所は配布する。 小林慶一郎『日本の経済政策』	
〔前提科目〕 マクロ経済学を前提とする。経済変動論を履修済みであることが望ましいが前提ではない。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) モデル分析に関する数回のレポート提出を求める。 成績評価は主に期末試験の結果によるが、毎回出席をとり、出席点との合計によって決める。 期末試験が3分の2、出席点が3分の1。	
〔評価の基準及びスケール〕 80 点以上 A, 70 点以上 80 点未満 B, 60 点以上 70 点未満 C, 50 点以上 60 点未満 D, 50 点未満 F	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 理論モデルによる分析と現実との対応を考えるようになってほしい。	
〔実務経歴〕 なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 短期マクロモデルの復習 内 容: 短期のマクロモデルの復習 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅰ
第2回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデルの復習 内 容: 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第3回	テーマ(何を学ぶか):短期モデルと長期モデルの前提の比較 内 容: 作成資料

第4回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデルにおける貯蓄率の変化と財政赤字 内 容: 参考書・マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第5回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデルにおける人口成長率と少子化問題 内 容: 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第6回	テーマ(何を学ぶか):ケインズの消費関数とライフサイクル貯蓄仮説 内容: 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第7回	テーマ(何を学ぶか):ケインズの消費関数と恒常所得仮説 内容: 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第8回	テーマ(何を学ぶか):サムエルソン消費貸借モデル 内容: 作成資料
第9回	テーマ(何を学ぶか):重複世代モデル 内容: 作成資料
第10回	テーマ(何を学ぶか):人口ボーナスと人口オナー 内 容: 作成資料
第11回	テーマ(何を学ぶか):少子化と移行世代 内 容: 作成資料
第12回	テーマ(何を学ぶか):重複世代モデルにおける公的年金 内 容: 作成資料
第13回	テーマ(何を学ぶか):全体の復習 作成資料
第14回	テーマ(何を学ぶか):全体の復習 内 容: 教科書・第7章
第15回	テーマ(何を学ぶか):全体の復習 内 容: 作成資料
試 験	12回目までの内容について試験を行う